

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0870200466		
法人名	医療法人 永慈会		
事業所名	ひたちの森ガーデン	ユニット名(	スイートピー )
所在地	〒319-1413 日立市小木津町1020番		
自己評価作成日	令和 3 年 6 月 25 日	評価結果市町村受理日	令和 3 年 10 月 14 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigvoCd=0870200466-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigvoCd=0870200466-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階
訪問調査日	令和3年8月30日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営母体が医療法人永井ひたちの森病院なので、いつでも医療機関に相談・迅速な対応を取れる体制となっております(月2回に主治医回診・週一回の看護師訪問)。  
スイートピーユニットでは、個別なレクリエーション活動の支援に力を入れています。歩行訓練や脳トレ、家庭菜園をはじめ、手芸に至っては茨城新聞社からの取材・新聞掲載をされました。コロナ渦により、地域住民との交流の機会が難しいかな、家庭的な施設生活についての生きがい活動は自負しております。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体が医療機関の複合施設であり、医療連携が整っている。緑あふれる敷地内には法人内施設が隣接し、病院は隣の敷地に位置する。利用者は敷地内の桜の下でお花見食事会、毎月のお茶会、散歩などを楽しむことができる。一方で、手作業のフェルト作品、季節に合わせた共同作品などの創作活動、レクリエーションにも力を入れており、利用者の得意なことや希望に沿った支援が行えるよう、工夫を凝らしている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を各ユニットごとに掲示し、毎朝始業前に皆で復唱し、共有できるよう努めています。	毎年のように会議で話し合い、見直しを行っている。理念のほかに「目標」を掲げ、外国人実習生の職員にもわかりやすく共有できる仕組みとなっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により、地域との交流の機会がなかなか得られなかったです。そんな中、日高小学校4年生からお手紙や作品、ビデオレターが届けられ、利用者様方は心温まる思いでした。	感染症対策で、地域住民との交流の機会が滞る中でも、近隣小学校からビデオレターや作品などが届けられるなど、心温まる交流が続けられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学の方や、電話での問い合わせなど、随時ケアマネジャーを中心に対応しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	通常は利用者様、利用者ご家族、市職員、地域の方、他グループホーム職員などで会議を開き、情報交換やご意見、ご要望などを頂いてサービス向上を図っておりますが、今年度は主に、電話での聞き取りや郵送での代替となりました。	コロナ禍が治まるまでは、委員に会議資料を送付し、事前に意見や提案を電話で聞き取りして会議開催としている。丁寧に事業所の活動報告を行うとともに、事業所の困っていること等も相談できる場として運営推進会議を活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者やケアマネジャーを中心として、介護保険課に赴き、法改正などのアドバイスを受け、連携を図っています。	市の担当者が運営推進会議で協力をしてくれている。管理者や介護支援専門員が各種書類を届ける際などに、市介護保険課や高齢福祉課を訪ね情報交換をし連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内のマニュアルや、高齢者虐待防止法についての勉強会を3か月に1度開催、情報を共有することによって、どのような事が虐待や拘束に当たるのかを学んでいます。	事業所で、3か月に一度身体拘束虐待廃止委員会を開催している。職員で担当を順に回して、それぞれが責任をもって担当しているとともに、事業所内の職員全体の勉強会が、年間研修計画の中に組み込まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会にて知識を深めたうえで、入浴時など、全身状態を観察したり、利用者様のちょっとした変化に早期に気づくことができるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉士を所持しているケアマネジャーを中心に、職員全員が学べる機会を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前や、入居説明時に説明し、ご家族の同意を得ています。法改正時など、都度連絡をし、同意を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より利用者様と密にコミュニケーションを図り、相談しやすい関係作りに努めています。面会時やお電話の際、ご家族にご意見やご要望をお伺いしております。また、玄関口にご意見・苦情ボックスを設置しています。	契約時、重要事項説明書に苦情相談受付窓口を明示して説明をしているほか玄関にご意見・苦情ボックスを設置している。家族等からは面会時等機会があるごとに意見を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議を定期的開催、職員の意見や提案を聞く機会を設けています。	管理者は朝の引継ぎ時や休憩中、あるいは空いている時間に職員から意見や要望を聴くようにしている。男性職員が増えたことで、更衣室を増設する等働きやすい環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与や労働時間に対する職員からの不満は聞かれておりません。また、個人評価表を用いることにより、仕事に対する意識向上につながっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月勉強会を開催しておりますが、全員が講師を務める機会を設け、学びを深めるとともにスキルアップの向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他施設や近隣のグループホームと連携を重ね、サービスの質の向上を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に聞き取りを行い、不安な点や困りごとなどを把握、想いに傾聴・尊重し、信頼関係構築に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前・契約時にご家族より不安なことやご要望、困りごとなどを聞き取り、ご家族が安心して施設を利用できるよう連絡を密にし、信頼関係の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族より、どのような支援が必要なのかを聞き取り、それに沿った介護計画を立て、実行しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「できることはやります」という意識を持った利用者様が多く、洗濯物や洗い物、ガーデニング、畑の手入れなど様々なことを職員と一緒に取り行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や家族会など、コロナ渦による制限により難しい中、施設での様子を手紙や新聞でお知らせしています。また、必要時には、ご家族との電話の取次も行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親しい人やご家族に、年賀状や絵手紙を送っています。	契約時にフェイスシートで利用者の馴染みの人間関係などを把握するようにしている。年賀状や暑中見舞いで馴染みの人との繋がりを継続している利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや体操などの機会に、利用者様同士コミュニケーションを取りながら楽しめる場を設けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お見かけした時にはご挨拶をしています。必要に応じて柔軟に対応しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の想いに心を向け、尊重し、自立した生活を営むことができるよう支援しています。	基本情報で生活歴や性格、思いや意向を把握している。意思疎通の困難な利用者からは、筆談や表情を汲み取り把握に努め、必要がある場合は個室でゆっくり話を聞き確認するようにしているが、記録をし介護計画書に反映する仕組みを整えるまでには至っていない。	意向を聞き取って支援しているが、汲み取った意見を記載した内容を話し合い、介護計画書へ反映させる仕組みを整え、更に利用者の想いに寄り添う支援への実現を期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族構成や生活歴、生活の意向を尊重し、自立支援に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様と密にコミュニケーションを取り、想いを理解し、一人一人が過ごしやすい環境を整えるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャーを中心として、職員全員で計画を立て、推敲して共有しています。必要に応じて計画を練り直しています。	毎月モニタリングを行い、基本半年から1年で見直しを行っている。見直し時には受診に合わせて家族に訪問してもらい、本人や職員が参加して担当者会議を開催している。把握した利用者本人の思いや意向を計画に反映させるまでには至っていない。	汲み取った利用者の思いや意向を介護計画書に反映させることを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を特定の人が記入するのではなく、皆で気付いたことを随時記録し、情報共有に努めています。また、申し送りノートを活用し、統一したケアができるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族の意見を随時受け、職員間で共有し、臨機応変に対応できるよう取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源との協働は、利用者様の安全確保を念頭にと考えています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の医師による訪問診療が月2回、訪問歯科診療が月1~2回あります。その他、月に1度、健康チェックの為に採血や心電図などの検査を行っています。	契約時にこれまでのかかりつけ医への受診が可能であることを説明しており、通院は家族等が行っている。協力医療機関の医師による訪問診療が月2回ある。医師とは情報提供書やデータを持参して情報共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師が週に1度訪問し、日々の健康状態や医療に関する相談事に対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	運営母体が病院なので、状態によっては入院できる対応になっています。医療機関と相談しながら、早期退院を目指しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に利用者様とご家族に説明し、同意を得るようにしています。必要時には、利用者様やご家族の要望に沿った支援に取り組んでいます。	契約時に重要事項説明書とともに「重度化した場合における対応に係る指針」を基に説明するとともに方針の統一を図っている。現在まで重度化の際はまず病院に行き、家族と医師で話し合い、家族の希望を考慮するが殆どの場合病院に入院となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを活用し、職員間で意見交換や意識の向上に努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	外気浴の際、災害時を想定した避難訓練を行っています。敷地内の3施設が共同し、全体避難訓練も行っています。災害時に対応できるよう、備蓄品の管理を徹底しています。	外気浴を兼ねて、災害時を想定した避難訓練を行っているが、夜間を想定した避難訓練を行うまでには至っていない。敷地内3施設合同の全体避難訓練も行っている。	万が一の災害時に備えて、夜間想定避難訓練と、反省点を次回に活かす取り組みを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、敬愛の念をもって支援しています。利用者様の意思を尊重できるような言葉かけを行っています。	入居時に、利用者や家族等に確認して、希望する呼び名を使用している。排泄時などは小声で声をかけ、プライバシーに配慮している。外国人実習生にも守秘義務研修を実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の想いに心を向け、自己決定を尊重し、自立した生活を営むことができるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の生活歴を把握し、その人の希望に沿った支援ができるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1度、理美容の訪問があり、その人に合ったヘアスタイルを楽しんで頂いています。ご家族の協力の下、お気に入りの服装で気分転換を図れるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合わせた行事食の提供に力を入れています。簡単な作業(テーブル拭きや下膳、食器拭きなど)においては自然と役割分担がされており、それが生きがい活動に繋がっている方もいらっしゃいます。	法人本部の管理栄養士に内容を確認してもらいながら献立を工夫している。中庭の桜の木の下で、ランチパーティーやバーベキューなどで食事が楽しみとなるような工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士により立てられた献立を提供、日々の記録に食事量や水分摂取量を記入し、栄養状態の把握に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを支援しています。また、月に1回、訪問歯科診療にて口腔ケアや口腔内チェックを行い、清潔保持をしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを職員皆で把握・共有しています。プライバシーを尊重し、さりげない声掛けや誘導を行っています。	排泄チェック表から排泄パターンを把握し、時間でのトイレ誘導を行っている。日中はもちろん、夜間もポータブルトイレを使用するなどして、できるだけトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や適度な運動を実施しています。症状が改善されないときは、主治医に相談、受診し、便秘薬などを処方して頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、体調面や利用者様の気分を考慮し、不定期に行っております(週3~4回)。季節に合わせて入浴剤を変えて気分転換を図っています。	入浴は基本週3~4回、利用者の希望に沿っていつでも入れるよう支援している。季節ごとにゆず湯やしょうぶ湯、りんご湯などを行って入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の状態や希望に合わせ、ご自身のペースで休息や睡眠が確保できるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬ファイルを作成し、誰が何の薬を服薬しているのか一目で分かるようになっていました。また、薬剤が変更となった際は、服薬後の状態観察を記録しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の個性や能力を鑑み、できることややってみたいこと、好きなことが行えるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	好天時には前庭にて外気浴や近隣への散歩を施行しています。ガーデニングや草引きなど、利用者様と職員が和気あいあいと楽しんで行っています。	広い敷地内での散歩や、季節の良い時期には定期受診の際、病院まで歩いて行ったりしている。中庭でおやつを食べたり、洗濯物を取り込みに行くなど外気浴の機会を設けている。洋服やプレゼントなどの買い物に出かけていたが、現在はコロナ過のため自粛となっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要に応じて、ご家族の了承の下所持している利用者様もいらっしゃいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望があれば、手紙の投函や電話の取次ぎを行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔が保たれている状態を心がけています。季節に応じた作品を利用者様方に作成して頂き、展示しています。ガーデンに由来し、花や緑は欠くことがありません。	清潔が保たれ、空気清浄機が設置されているとともに、明るいスペースとなっている。玄関のスロープなど車椅子での出入りがしやすいようになっている。利用者が作成した季節に応じた作品や、近隣の小学生との交流の手紙や写真を展示している。季節の花や緑は欠くことがないようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様のご気分に合わせて、その時々居心地の良い場所で過ごしていただいております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は広々としていて、収納もたくさんあります。その方々の馴染みのある物を持ち込んでいただき、穏やかに過ごしていただける部屋作りに努めています。	居室は換気し空気の入替えをおこなっている。好みのものや馴染みの物を持参してもらえるように説明し、利用者本人、家族等が相談しながら部屋作りを工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	屋内はバリアフリーで手すりが設置されています。お手洗いや浴室、居室は分かりやすく表示がされているので、戸惑うことなくお過ごしいただいております。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 ひたちの森ガーデン

作成日 令和 3 年 10 月 14 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	夜間における災害を想定する。夜間帯は各フロア1名ずつの勤務となっており、それぞれのユニット全員を安全かつ迅速に避難する友好的な手段を模索中である。	まずはサポートハウス在住の方に応援を依頼する(本院への連絡含め)。実際に夜間を想定した訓練を施行する。	緊急連絡網を利用し、実際にどのぐらいの時間でどれだけの職員が集合できるのか、また、サポートハウス住人にどこまで協力を得る事ができるのか確認を行う。	6ヶ月
2	26	利用者様より、生活に対する意向などを聞き取っているが、コロナ禍を理由にそこから関の段階へ進むことが出来ていなかった。	利用者様と職員、利用者様とご家族と職員(主治医も含めると尚良い)皆で詳細に話をし、最善の案を練りだすことができる。	今回は特に、在宅復帰を切望されている利用者様とご家族がモデルとなっているが、まずはご家族と利用者様、主治医、職員とカンファレンスを行い、記録に残す。	6ヶ月
3	23	基本情報において、成育歴や職歴などの生活歴を、詳細に把握しきれていない。	ご本人やご家族が記入しやすいように、生活歴などの様式を準備する。	簡単に記入できる生活歴を作成し、ご本人が記入できればご本人に、できない状態の方はご家族に協力を仰ぎ、ストレングスを練りこんだ計画書を作成する。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。